

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所育ち 第2事業所		
○保護者評価実施期間	令和6年12月16日		令和7年1月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日		令和7年1月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和6年12月16日		令和7年1月14日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士、理学療法士が担当し発達専門知識だけでなく、園や学校内で必要となる『個の力』や環境や課題に応じた支援方法についてエビデスを意識して支援の提案や検討を行うことができています。	児童発達支援や放課後等デイサービスで実施している専門的評価についても適宜確認しております。また、論文等の確認を行い、支援に活かせるよう内容を職員内で共有しております。支援内容を検討する際には、様々な目線で考え、事業所の一方的な提案にならないよう留意しております。	園や学校等で働く先生方の意見もより取り組まれるよう情報共有ができる場を設けていきたいと思っております。
2	直接支援の支援内容を保育所等訪問職員内で統一することで、より質の高い支援を行うことができています。	行動観察を中心にを行い、記録を作成するよう心がけています。また、施設やご家族も実践できるよう、直接支援内で実施した声掛け等支援に対して子どもがどう反応したかも記録に記載し共有しております。	行動観察や支援の質を高められるよう、研修の受講や専門的情報の収集と共有を継続していきます。
3	訪問支援記録はできるだけ具体的に記載し、施設と保護者両方に共有することで、支援内容や子どもの様子を共有することができています。	訪問支援を実施したらその日のうちに、対象児の様子について保育所等訪問支援職員間で共有しています。その中で支援方法の検討や施設側との打ち合わせが必要な際は日程調整等を行います。また、必要に応じて併用している児童発達支援事業所・放課後等デイサービスとも集団での様子の共有を行い、支援内容の提案や事業所での様子の確認をさせていただいております。	記録内容を『直接支援』『間接支援』『家族支援』で明確になるよう工夫をしていきます。また、内容についてのフィードバック等が直接行えるよう調整していきたいと思っております。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援実施日が不確定な面が多い。	子どもが他サービスを併用していたり、事業所・施設側の行事やシフトの都合で予定を立てられないことが考えられる。	初回モニタリング時に、普段の他サービス利用の確認や園側との確認を行い、できるだけ回数や頻度を計画的に行えるよう連携を図ります。
2	先生方や保護者とのやりとりが少ない	施設側の先生方の通常業務の面を考慮しすぎて、予定の検討をする機会が少ないのではないかと。	現在施設側の先生とは、訪問支援時に最後に少し共有をさせていただくような対応をしております。 保護者様・施設側先生方ともに、現在よりも定期的な対面でのやりとりの場面を設けられるよう計画を立てていきます。
3	SNSやホームページ上での保育所等訪問支援についての情報発信が少ない。	多機能型事業所であり、児童発達支援についての発信が強調されてしまったのではないかと。	『保育所等訪問支援について』『実際の取り組み』などの情報発信を検討していきます。